

1日目(7月13日土曜日) ※受付: 8時30分から・休憩室は505号室にございます

会場	417号室(300)	502号室	503号室	510号室	511号室	512号室	506号室(受付)
8:30-9:00	受付開始						受付開始
9:00-9:50	身体と性の抑圧を超越する美の探求 清水花梨	Categories and trans women in elite sports: breaking barriers without breaking boundaries Emese Berta	ハイデガーの『オントロジー』講義における「事実性」概念 原子龍之介	精神病理における個の問題とシモンドンの個体化論の関係について 堀江郁智	クライオニクス個体は福利主体たりうるか 坂田萌音	パースにおける真理 西岳和生	
10:00-10:50	限られた人々だけの議論で満足しないために: 哲学する場を「セーフティ」にする	The Status of Aesthetic Testimony 昆佐央理	現前の神から不在の神へ: ハイデガーにおける神の思索の展開 中川暖	禁じられた、不可能な欲望: 1950年代のラカンにおける強迫神経症論 片岡一竹	なぜ胎児の死は悪くないのか: 時間相対的利益説と福利主体論 本間哲	思考可能性論証の分析: 二次元意味論と現象的概念 矢歌礼次郎	
11:00-11:50	WOMEN: WOVEN オーガナイザー 坂本美理・竹内彩也花・浅葱	芸術の定義論における芸術のバックパッシング理論の検討 豊田真菜	恐れのパラノイアのために: ハイデガー『存在と時間』における「情態性」論から 馬目悠太郎	ダンテのナルシシズム: ジャック・ラカンの『神曲』論をめぐって 北村公人	死の害は内在的な害なのか: ベネターの消滅説を批判する 木口さくら	生と概念: マクダウェル・ドレイファス論争から概念の存在論へ 村松泰知	
11:50-12:50	昼食休憩						
417号室(300)							
12:50-15:50	テーマレクチャー 戦争と平和 佐藤香織・真嶋俊造						
16:00-16:40	全体会						
16:50-17:40	H.-G. ガダマー『真理と方法』の意義とその射程: 芸術・精神科学・言語 土方尚子・下山千遥・川村壮平	ルッキズム概念の分析: 私たちはルッキズムという言葉で何を問題にしているのか 亀岡菜穂子	何かとは何であるか: ハイデガー、ローゼンツヴァイクを手掛かりに『哲学探究』§37を読み解く 白木啓吾	経験の構造: デリダの思想における神の不可欠な働き 佐藤瑞起	人生の意味が私たちの心次第なら、満足していた人生を悔いることがあるのはなぜか 太田泰幹	非存在論的量化と真理値空隙の存在について 北園純也	
17:50-18:40		アイデンティティを横断するフェミニズム: J.バトラーの普遍概念と平等主義に立脚して 濱本涼介	非自我論的な現象学の可能性 宮田勇生	初期ナンシーにおける「触覚」の萌芽: デリダの『触覚』を手掛かりにして 砂川優斗	「人生の意味」概念の検討 松岡明香里	論理学に関する反例外主義(AEL)の包括的検討 飯田峻斗	
18:50-19:40	たぶん哲学者は、議論をやめて投票をするべきだ 松田新	哲学とデザインが、それぞれに貢献できること 瀬尾浩二郎	「現象学の自然化」とは何か? 水本健琉	ドゥルーズ『ペルクソニズム』における再認識の様相: 再認識の二つの過程に着目して 山本昇弥	人生の意味についての言説の多様性と祭話の文脈: Bazの認識論における議論を手引きとして 八木聡	原初状態をモデル化する: Chungのモデルへの異論 柴田龍人	

受付

2日目(7月14日 日曜日) ※受付: 8時30分から・休憩室は505号室にございます

会場	502号室	503号室	510号室	511号室	512号室	514号室	506号室(受付)
8:30-9:00	受付開始						受付開始
9:00-9:50	「こういう風になってく らしたい」とはどうい うことか: ちいかわと プラトンの理想国 平石千智	構造的合理性と実質 的合理性は、一方が 他方へ還元可能なも のなのか 高山馨	心と世界の境界線を 訪ねて(拡張された 心)仮説を(足場に支 えられた心)仮説か ら擁護する 神崎祥輝	死すべき者の生の空 しさとニヒリズム 笹混介	文化財保存修復にお ける世代間倫理の諸 問題(予察) 大川柚佳	ホッブズの想定する 法と権威の限界 高近理央	
10:00-10:50	悪は存在する: アウグティヌス、ライ ブニッツからホワイト ヘッドへ 上田有輝・石川知輝 ・三浦隼暉	シモンデン技術論に おける人間機械論: 「発明」概念の検討を 通じて 石長佑一	日常言語哲学に「実 験」は必要か: パズ の実験哲学批判を検 討する 下道亮成	「夢現、微睡みの先 の絶対真理: グルニ エーカミュにおける «indifference»」(仮 題) 毎床玲音	集団行為における責 任について:理由を中 心に 中村颯太	被選挙権制約型エビ ドクラーシーの擁護 福家佑亮	
11:00-11:50		アニメにおける作者 の意図の哲学 大石駿	判断理論の諸相と 「ラッセル=ワイトゲ ンシュタイン論争」の 帰趨 近藤雅照	非連続の時間: ガス トン・バシュラールの 時間のあり方につい て 江崎拓真	古典的自由主義は 臓器の再配分を实施 すべきか 入江明憲	ゲオルク・ジンメル の個人主義思想にお ける倫理の諸形態 粕谷健太	
11:50-12:50	昼食休憩						
12:50-13:40	〈因果〉を用いた説明 池田開・坪井祥吾・ 依田浩美・佐藤光祐 ・吉原雅人	カクテルの哲学: バーテンダーの意図 とカクテルの評価 宇野佑	ワイトゲンシュタイン 左派: バーナード・ ウィリアムズによる批 判の方法論 矢端崇	フーコーの哲学史?: フーコーとカンギレム におけるアリストテレ スの位置付けを巡っ て 池田信虎	義務と責任の関係 村上善信	こちらの発表はキャン セルとなりました	
13:50-14:40		麻雀の哲学: 文理融 合型アプローチを通 じた新たな哲学的遊 戯論の構築に向けて 中谷頌岐	バーナード・ウィリア ムズにおける自信 安藤隆之	アシーユン・ベンベに おける主権の位置づ け: フーコー/アガン ベンを生権力論との 比較を通して 雪丸温翔	二層功利主義に基づ いた動物倫理: Gary E. Varnerの理論を 検討する 仲間礼	マイクロアグレッショ ンにおける前意識的 な敵意について 赤木優希	
14:50-15:40	和辻倫理学における 儒教思想の受容:「人 倫的組織」を中心に 陳歆	感動すればするほど よい人生になるのか: ホームズ型の人生と 驚きの感動 松井大騎	ヒュームの徳倫理学 とは: スロートの徳倫 理学との差別化を 図って 石原修司	ジャン＝ミシェル・サ ランスキの哲学にお けるユダヤ性 布施哲朗	ジョン・ハーサニの功 利主義の検討 中村貴行	チャールズ・テイラー における公共圏の対 話の構造と背景 助信愛梨	
16:50-17:40	前期西田哲学におけ る「創造」の問題 後藤祐次郎	「問い」の当事者性と 共同性: 哲学対話に おける「問い」に注目 して 青木門斗	マーサ・ヌスバウムの 思想形成: コスモ ポリタニズムを問い 直すために 宇都宮有	ブランショのユダヤ 論におけるヘーゲル 批判 村上倫	グライスの推意の理 論における「話し手 意図」の問題 李思儀	アンチワーク(反労働) の思想の検討 渡辺ミルバ	
17:50-18:40	健全な比較哲学への 課題: インド哲学の 視点から 梶野歩夢	哲学対話・哲学カフェ のあり方: 学習院大 学Philo LABOを事 例として 田村宜義・本多慶輝	賢い人になる方法: 徳理論と帰結主義 谷川隼太郎	メルロ＝ポンティにお ける哲学とヘーゲル の問題 橋本颯太	外国語利用者のアイ デンティティとことば について: 中間言語 語用論の視点から 荒木彩記	功績と分配的正義 徐晨荷	

受付